

第2回（通算第28回）白井市新型コロナウイルス感染症対策本部会議 議事録

1 日時及び場所

令和3年8月25日 午前11時から12時15分 東庁舎1階 101会議室

2 出席者

本部長：市長 副本部長：副市長、井上教育長
本部員：総務部長、企画財政部長、福祉部長、健康子ども部長、都市建設部長、
 会計管理者、教育部長、
関係課長等：総務課長、秘書課長、財政課長、危機管理課長、企画政策課長、生涯学習
 課長、子育て支援課長、保育課長、公共施設マネジメント課長、文化センター
 長、市民活動支援課主査
欠席： 市民環境経済部長、議会事務局長、白井消防署長
 （事務局） 健康課長、健康課職員

3 議事概要

本部長より

【感染状況】

市の状況	4月～5月、	6月、	7月、	8月（8/22 現在）
	80人	22人	45人	143人
	↓		↓	↓
	4波		5波	保健所の発表が遅れている 累計582人 受け入れてくれる病院が少ない 自宅療養が増えている 印旛管内では2番目に低い 白井・印西の新規感染者数419人

ワクチン接種の効果か、高齢者の感染者が減っている。

9月中旬には発送完了、10月末には接種完了を目標。

感染者をゼロにはできないと思われるが、できる限りクラスターを避けたい。

千葉県状況

- ・感染者の増加が約130%となっている。
- ・お盆に動いた人達はこれから発症していくのではないかと。
- ・保健所業務はひっ迫しており濃厚接触者の把握もできない状況。
- ・県から保健所への応援職員の要請が来ている。

ワクチン接種の対応

- ・8月末までに50%、10月末までに70%の接種を目標としている。
- ・情報発信体制の拡充。駅に感染状況の掲示を行った。土日もHPに感染状況を更新するようにした。

【緊急事態宣言延長に伴う対応について】

(1) 保育課から（提案）

- ・保健所がひっ迫しているため、濃厚接触者の特定をしなくなり、濃厚接触者であっても無症状の者はPCR検査の対象外となっている。
→保育現場でのクラスターを防ぐために、保健所がひっ迫している時期に限っては、

同居家族などの濃厚接触者の可能性が高く、かつ症状があるにもかかわらず受診へ繋がらない児を陽性者と見なし、同一空間にいた児等に市独自のPCR検査を実施したい。

- 実施することで、かえって保健所業務の足を引っ張ることにならないか。
→現在、保健所は対象の事業所などに濃厚接触者への対応等を任せている状況であり、問題はないだろう。
- 学校は予定どおり2学期を始める予定。学校も感染対策をしっかり行うが、市独自のPCRの実施が増えることが見込まれる。
- 保健所は、濃厚接触者というだけではPCR検査をしなくなっている。無症状の子から他の子へ感染させる心配がある。
- 幼児については、検査してくれる医療機関も少ない状況がある。
- 家族が陽性となった場合には、子供が濃厚接触者である可能性が極めて高い。その子供も市独自のPCR検査の対象としたらどうか。
- 市独自のPCR検査の指針上、陽性者という判定がないと、その周辺の検査に広がらない。保育課の提案は、そこに対応できないかということ。
- 保健所が必要性を認めていない無症状の濃厚接触者に対し、検査をするのはどうだろうか。もし陽性となった場合には、医師に発生届出をしていただく必要がある。市独自のPCR検査で陽性となった場合には、学校医や園医に発生届をお願いしているので、医師会にも相談が必要ではないか。
→健康課から、医師会に相談し決定すること。

(2) 総務課から

- これまでと違い、庁舎内の感染対策が徹底されていること、ワクチン接種が円滑に進んでいるため、業務継続計画は発動しないこととしたい。
- 今後、業務継続計画を発動する場合に備え各課での準備は依頼する予定。

(3) 生涯学習課

- 学校開放について、県の要請に基づき19時までとしているが、案①、案②のどちらかに変更したい。どちらが良いか判断いただきたい。
 - 案① 「3時間までとし、昼食は挟まない。」を追加する。
 - 案② 利用中止とする。
- 8/23の県からの要請により、部活動の中止も予定している。
- 学校開放を継続することに対し、保護者などからの心配の声が大きくなることも考えられるため、案②で良いのではないかと？
→学校開放は9月から緊急事態宣言解除まで利用を中止とする。

【指示事項】

- (1) 感染対策の徹底 (2) 感染情報の発信 (3) ワクチンの加速化